

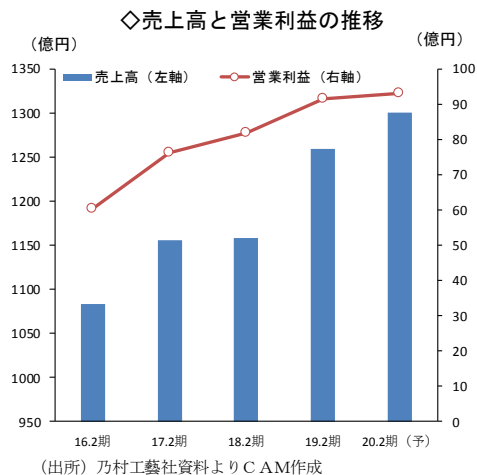
# 企業ニュース 乃村工藝社

(東証1部: 9716) <https://www.nomurakougei.co.jp/ir/>

作成者: 荒木晶子

## ディスプレイ事業の国内最大手

商業施設や博物館などの各種施設やイベントの内装・展示を手掛ける。調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営・管理を一括して行う。1954年の第1回東京モーターショーや1970年の大阪万博の政府館・主要展示館など大型案件を手掛けた実績があり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、商業施設や空港・駅の整備などの都市再開発、宿泊施設の新装・改装などに関する案件増加が期待される。20.2期・第1四半期(3-5月)はその効果がみられ、受注高において博覧会・イベントの分野が大きく伸長したようだ。また、働き方改革を背景としたオフィスの環境整備需要も増えており、良好な事業環境が継続するとみられる。



### 第1四半期は順調なスタート

20.2期・第1四半期(3-5月)の連結業績は、売上高が315億円、前年同期比42%増、営業利益が26億円、同375%増。前期の第1四半期は大型案件の完成工事が少なかったのに対して、今期は余暇施設、オフィスや保育園、鉄道・空港関連施設などの大型案件が増加した。また、受注や施工の管理を徹底したことによる粗利益率の改善も奏功し、大幅な営業増益となった。営業利益の上期計画に対する進捗率は66%と順調なスタートを切った。受注高は、東京オリンピック・パラリンピック関連が本格化した模様で、前年同期比37%増となった。

20.2期の通期会社計画は、売上高が1,300億円、前期比3%増、営業利益が93億円、同2%増。売上高は豊富な受注残高の消化により、順調に増加しよう。粗利益率は同横ばいの20.7%を見込んでいるが、大型案件の増加による増収効果や受注・施工管理など採算改善の取り組みの継続により、改善が期待できよう。通期計画は据え置いたが、良好な事業環境や第1四半期の実績を勘案すると保守的であり、上振れ余地があろう。

### [株価動向・投資判断]

イベントや働き方改革などを背景に受注高の増加基調が継続しよう。積み上がった受注残高を着実に消化していくことで、持続的な収益拡大が期待できよう。

<9716 乃村工藝社 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.2	115,841 ( 0)	8,171 ( 7)	8,373 ( 7)	5,638 ( 12)	101.4	45.00
19.2	125,859 ( 9)	9,154 ( 12)	9,341 ( 12)	6,745 ( 20)	121.3	記52.00
20.2 予	130,000 ( 3)	9,300 ( 2)	9,400 ( 1)	6,300 ( ▲7)	56.6	25.00

(注) 19年6月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/7/12)	1,413 円
年初来高値 (高値日)	1,670 円 (19/4/15)
同 安値 (安値日)	1,178 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.2 予)	25.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	377.0 円
P B R	3.75 倍
予想配当利回り	1.77 %
(1株当たり配当金年25.00円)	
R O E (19.2)	16.3 %
発行済み株式数	11,990 万株